

# UTaTané (うたたね)

## 団体紹介



# 目次

- ✓ 団体概要
- ✓ 展示例・对外発表例
- ✓ これまでの活動実績
- ✓ 目指す実践 / 大切にしていること
- ✓ 問い合わせ先

# UTaTané（うたたね）の概要

科学や学問との新たな「つながり」をデザインし、実践する。

展示制作・科学イベント運営・論文発表等までを一貫して行う、学生主体の「研究室」的組織

なぜ、新たな「つながり」が必要なのです？

科学や学問と社会との関係が多様化・複雑化  
e.g. コロナ禍をめぐる問題、原発安全神話の崩壊



学問の様々な側面を、様々な方法で伝え、  
様々な価値観をもつ人々が、ともに考える場を作りたい

UTaTanéのこれまでの主な活動・実績



web展示制作



イベント運営



学術論文発表

- ✓ 大学内外各所で、対面・オンラインイベント実施（24件）
- ✓ 論文発表などを通し、科学と社会を繋ぐ学問的探究にも貢献

各所でのイベント実施・監修、共同での展示制作など、随時ご相談を承っております！

## 科学や学問との新たな「つながり」をデザインし、実践する。

展示制作・科学イベント運営・論文発表等までを一貫して行う、学生主体の「研究室」的組織

[ストックルマイヤー 他, 2013]

### 科学理解増進

科学的知識・成果の  
一方向的な伝達

### 対話

知識交換により  
多様な見方を媒介

### 知識構築

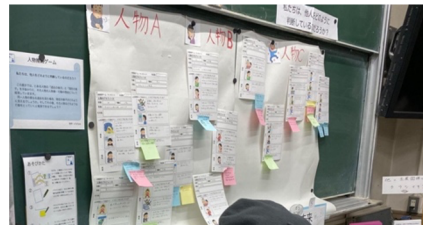
異なる知識からの  
協創を目指す

### ✓ 未来館スタイル [城 他, 2015]

- ・知識を伝えるだけでなく、ともに考えながら話を深める
- ・さまざまな立場の意見を聞くことで、皆が新たな気づきを得る

### ✓ 科学技術コミュニティの「社会リテラシー」 [小林, 2007]

- ・科学技術の専門家が市民の価値観や発想を理解すること  
→一般市民の声を聞く活動としてのSciCommの重要性



- ✓ 「実践—理論」の両輪を回し、学園祭等でイベント出展
- ✓ 従来のSciCommが扱わない広範なテーマを対象  
e.g. 人文系（言語学・社会心理学）の展示 / 作業療法士との共同制作展示

# 活動の中心：実践づくりから对外発表まで

アイデアから実践開発、对外発表まで一貫して行う

## アイデア・展示案考案

「伝わるデザイン」に  
自身の伝えたいものをのせる

UTaTanéカフェ：企画ブレスト

筋の良いアイデアや展示案を  
考えるノウハウを提供可

## 実践開発・運営

実際の展示や体験を  
どう作るのか？

UTaTané合宿：学び合いながら展示開発  
もくもく会：メンバーに気軽に相談

資金・展示開発の  
ノウハウを提供可

## 对外発表・論文執筆

作成した展示や体験の  
「価値」を残す

对外発表や論文執筆を  
戦略的に行う

論文調査や執筆をサポート

UTaTanéカフェ & 合宿など、個人やグループの実践開発を強力にサポートする仕組みを整備

- ✓ 全体総会（月1回，原則参加）：プロジェクト報告・新規実践の運営について
- ✓ UTaTanéゼミ（月1回）：論文を皮切りに、様々な学際的话题を議論
- ✓ 駒場活動日（週1,水曜）：来たい人が部室にふらっと集まる曜日。
- ✓ その他ミーティング（随時）：個別のイベント運営，論文執筆，对外プロジェクトについて

# 展示・对外発表例

## 展示例：

ねじ曲げ見出し  
ウソを作って考える「メディア・リテラシー」

「ついクリックしてしまいそうな」見出しを考える  
→発信者の視点から、情報のねじ曲げ方を眺め分析する



### ★ 自然の驚異が脅かす科学の權威

自然と科学の対立を荘嚴な雰囲気でも伝えたかったが

### ★ 貴方も!? コロナが弄ぶ科学と情報の間

心配と恐怖は、人間の生存欲求本能を強制的に反応させる ひよひよ

### ★ あなたはこの記事も鵜呑みにしますか？

前置の情報拡散が本当はほころびの元かもしれないって怖いにやんで通報

### ★ 科学は死んだ

死んだなんて書いてないけど死んだことにしちゃえ やめ 通信社

## 発表例：

論文誌『科学技術コミュニケーション』掲載

科学技術コミュニケーション 第28号 (2021)

Japanese Journal of Science Communication, No.28 (2021)

報告

参加者の自発的交流と参画を促す  
科学技術コミュニケーション  
～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～

久保田 祐貴<sup>1,3</sup>, 加藤 昂英<sup>2,3</sup>, 一柳 里樹<sup>3</sup>

### 要旨

近年、参加者それぞれが、新たな視点や科学との関わり方を見出すことのできる、対話を伴う科学技術コミュニケーションが目ざされている。その実践では、科学技術に対する参加者の意見や知識を説明者や他の参加者が把握するとともに、参加者と説明者が共同で新たなアイデアや視点を生み出すことが重要な目的となる。本報告では、著者らのUTaTanéにおける一連の活動から2つの実践例を紹介する。これらの実践では、当事者性・受容可能性・柔軟性の3点に配慮した実践設計を行った。さらに、参加者の創作活動を対話の起点とすることで、参加者と説明者の双方が新たなアイデアや視点を見出すことを目指した。結果として、知己の者同士の直接的な対話だけでなく、初対面の者同士の対話や掲示された創作物を通じた間接的な対話など、多様な形態の対話が実現した。特に、参加者が自発的に話題を提供することで、他の参加者や説明者が新たな視点を得る場面もあった。加えて、「きっかけから探究への一貫通貫のデザイン」が対話を伴う科学技術コミュニケーションを行う上で重要であることが示唆された。これらの実践と考察は、参加者の相互交流や参画を促す実践を行う上での試金石となり、実践を組み立てる際の一助となることが期待される。

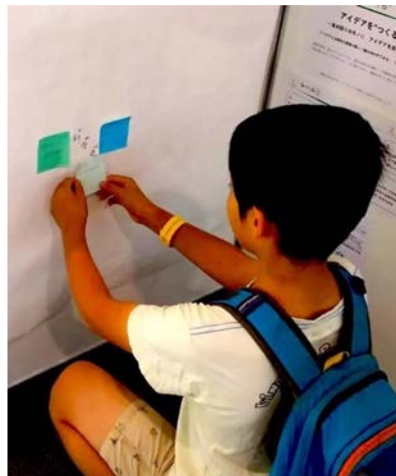
久保田祐貴, 加藤昂英, 一柳里樹: 参加者の自発的交流と参画を促す科学技術コミュニケーション～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～, 『科学技術コミュニケーション』28号, pp.61-74 (2021).  
[https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/80614/1/JJSC28\\_061-074\\_KubotaY.pdf](https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/80614/1/JJSC28_061-074_KubotaY.pdf)

## どう展示？

- ・「科学色」や「東京色」といったお題に、参加者がぴったりだと思う色を選んで理由を書き、みんなの回答を一覧にしてながめる展示

## 着眼点

- ・「科学」や「東京」など、様々な言葉へのイメージを、色を通して考え、共有する
- 参加者の意見の収集と可視化を通じて、「科学」などへの考え方を知り、ともに考える





## どういう展示？

・同一人物の様子を示す複数枚のイラストからその人物の「人物像」を推測、プロフィールを作成し、その内容を自分や周囲の人びととの類似点という観点から分析することで人が他人をどのように判断するのかをさぐる

## 着眼点

- ・2022年駒場祭に出展した「人物推測ゲーム」の改良展示
  - ・限られた情報から人がどのような判断をするのか？
- 同じ人物の「現在」を見ていても違う「過去」の様子を知っている人たちが、その人物の人物推測をしたときにどのような違いや共通点が出るか（人物推測ゲーム）
- 駒場祭中、参加者が作ったプロフィールに自分自身の経験が強く反映されていることに気づく  
（背景の理論：アンカリング理論）
- プロフィールの「分析」に焦点を当てた展示へと改良

人物推測ゲーム（改良前）



ワークシート		作成者: <input type="text"/>
出来事① 出来事カードを引いて貼ろう	いつの出来事？ どういう状況？	このあとどうなった？ このあとどうなった？
出来事② 出来事カードを引いて貼ろう	いつの出来事？ どういう状況？	このあとどうなった？ このあとどうなった？
この人物の「人物像」を考えよう		
年齢: <input type="text"/>	職業: <input type="text"/>	
特技: <input type="text"/>		
性格/ 考え方: <input type="text"/>		
終わったら、自分で選んだ内容を色ペンで分類してみよう		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分に似ている</li> <li>● 身近な人に似ている</li> <li>● キャラクター…有名な人、「それっぽい」風がした など</li> </ul>		
どうしてこのような人物像が出来たのだろうか？		

「人物像」を見つめる（改良後）



## どういう展示？

- ・ニュース記事に、「きまじめ見出し」と「ねじまげ見出し」の2種類の見出しを付けてもらう
- ・みんなの回答を並べて一覧化→「つい、クリックしそうな見出し」に"星印"を付ける

## 着眼点

- ・「発信者の視点」から、情報のねじ曲がり方を眺めてみる
- ・当初は「ねじまげ見出し」だけだった→ねじ曲がり方を比較できるよう、「きまじめ見出し」を付けてもらう部分を追加

### ねじまげ見出し

1. 下の記事に、「きまじめ見出し」と「ねじまげ見出し」の2種類の見出しを付けてみましょう！
2. 上のタブをクリックして、いろんな人の見出しを見に行きましょう！

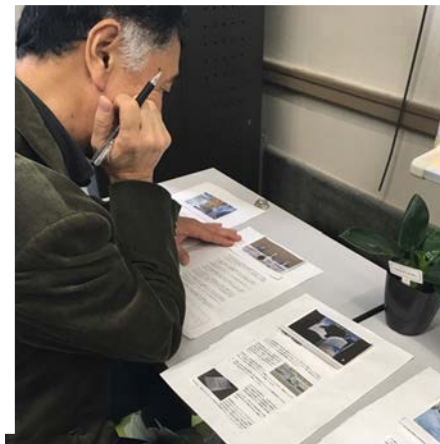
#### 考える記事

(ボタンを押して選択)

- 記事1**
 記事2
  記事3

日本郵便は、フリマアプリの利用者などから寄せられた、厚みのある荷物をポストから送りたいという要望に応えるため、投かん口を大きくしたポストの設置を始めました。  
東京品川区に設置された新しい郵便ポストは、これまで4センチだった投かん口の高さを7センチに広げ、厚みのある荷物も入れることができます。

※出典は[こちら](#)(リンクをクリックすると実際の見出しが見えてしまうのでご注意ください)



#### ★ 自然の驚異が脅かす科学の権威

自然と科学の対立を荘嚴な雰囲気で作った たか

#### ★ 貴方も!? コロナが弄ぶ科学と情報の闇

心配と恐怖は、人間の生存欲求本能を強制的に反応させる ひよひよ

#### ★ あなたはこの記事も鵜呑みにしますか？

善意の情報拡散が本当はほころびの元かもしれないって怖いやって 速報

#### ★ 科学は死んだ

死んだなんて書いてないけど死んだことにしちゃえ やぬ 通信社

## どう展示？

「信頼できる専門家をどう見極め、どう関われば良いだろう？」という問いを、コロナ禍の専門家との関わりをワークシート上でシミュレーションしながら考えてみる展示。

## 着眼点

- ・一次情報を見極める力には限界があるのではないか？「専門家リテラシー」を考えてみよう。
  - ・科学社会学でH.コリンズらが論じている問いを背景に展示を作成。
- 参加者が、ワークシートを書きながら、学問と同じ問いに到達し、生活者の言葉で、考え、表現し、他の人とともに考える。



「専門家」を再考する  
ワークシート①

1. 回答者カードをひこう

医師

＜プロフィール＞  
✓医師の資格を持つお医者さん  
✓異業種者も見ている  
✓住んでいる地域のインフラエンジニアの集まりに参加してきた。

2. 質問が書かれた用紙を2枚ひこう

質問①

Q1. この人が上の質問を答えたらその答えを信頼できる？

数字に○をつけよう

信頼できない ← 1 2 3 4 5 → 信頼できる

Q2. 回答者カードのどこを見て、なぜ、そう思った？

質問②

Q1. この人が上の質問を答えたらその答えを信頼できる？

数字に○をつけよう

信頼できない ← 1 2 3 4 5 → 信頼できる

ここまで書けたらためらってみよう→

3. カードの情報だけで、信頼度を本当に見極められるだろうか？他に必要な情報を考えてみよう

回答者に関する必要な情報

どうして必要？

どうやって調べる？



他の人が書いた「見極め方法」を、私も使ってみたいか、分析してみよう！

今まで使ったことがどれくらいあるか？(経験)

○ → ほとんど使った →

見極められそうか？(効果)

○ → どうしてそう思う？ →

調べやすいか？(実現可能性)

○ → どうしてそう思う？ →

### どういう展示？

生活の中にある情報技術やサービスが、暮らしに何をもたらすか、そしてその技術とどう付き合うかといったことを、「副詞」を手がかりに探ったり、他の人との会話の中しながら見出したりして考える展示。

### 着眼点

- ・ 技術は「何かをするための道具」であるだけでなく、本来の目的以外の様々な効果をもたらしている。具体的にはどんな効果があるだろう？  
(背景の理論：マクルーハンのメディア論，技術哲学 等)
- ・ そうした「効果」を断ち切ることはできない中で、どんな価値を大切にしたいか、ともに暮らす他の人と一緒に考える  
(背景の理論：フェルバーク「事物の道德化」，フーコー「自己のテクノロジー」)



使ったワークシートや掲示

**技術をさぐる Step1**

1. 技術の一つを選んで考えよう。

2. 選んだ技術は、何かをするためのものだろうか？ その技術があることで、私たちは何をできるようになった？  
机の上から言葉カードを1枚とり、5つの言葉から2つを選んで ( ) にいれよう。

( ) する( ) してしまおうこと は何だろうか？  
そうすると何が起る？

何をするために使っている？  
( ) する( ) してしまおうこと は何だろうか？  
そうすると何が起る？

3. もし2に書いたことが真りの人にも起きていくと世の中はどんなふうになるだろうか？ (2の両方でもどちらかを選んでOK)

人の感じ方・人の考え方がとる行動・他の人との関わり方が ( ) 変わる。

**Step3**  
あなたが技術を使う上で大切にしたい価値を近くの人と話してみよう！

「大切にしたい価値」は、あなたと他の人の間で、促しているところも違うところもあるだろう。そして、様々な技術や使い方が世の中に出ていくと、あなたと技術のつながりは、他の人も変わる問題になっていく。どうしたら、わたし「たち」は、技術とよりよく付き合うことができるだろうか？ここでは、いくつかのテーマについて近くの人と話しながら、わたしたちと技術のつながりを考えていこう。「技術をさぐる」ことは、技術を通して「あなたや他の人をさぐる」ことにもつながるかもしれない。

**2人(グループ) でやること**

①サイコロを振って、話すテーマを決め、近くの人と話してみよう。

②「技術は生活に何をもたらす？その技術とどう付き合う？」という問いについて、どんなことを考えた？話し合いながら回答を考えて、二人(グループ)で一緒に、付箋に書いて貼ってみよう。

ここでは、一つに決まる「正解」も「不正解」もない。いま、話してみたい話しても大丈夫だと思うことを、相手に伝えてみよう。

展示URL：[http://utatane.info/apps/KF21/science\\_creator/](http://utatane.info/apps/KF21/science_creator/) (2021駒場祭ver.)

### <背景>

理科で習う教科書の知識は、“正しい知識”  
→ “確実に正しい答えを出してくれる科学”のイメージ

実際には作られつつある科学の知識は常に変わっている。  
e.g. COVID-19の流行状況や、ワクチンの開発

### <持ち帰って欲しい体験と問い>

科学の方法論「仮説検証」を体験する。  
“科学的な仮説”ってなんだろう？  
たてた仮説はいつも正しい？  
段々と知識が更新されていく様を体験する。  
“科学的に正しい”ってどういうことだろう？  
実際の科学ってどんな風に知識がつけられているのだろう？



1日目  
10時ごろ



1日目  
12時ごろ

駒場祭中に来場者の参加によって、  
段々と展示が作られていく。

## どう展示？

- ・ 駅や川辺などで採取された音を聞いて、イメージされる色やオノマトペを回答する。みんなの回答を一覧化し、眺めてみる。
- ・ 作業療法士の方と取り組んだ共同展示。

## 着眼点

- ・ 音、オノマトペ、色など、普段私たちが何かを表現するときに多用する言葉とは異なる方法で表現し、言葉以外の表現法の可能性を考える。
- ・ 同じ音を聞いても人によって異なる回答を一覧化し、みんなが同じことを感じているとは限らないという現実の多重性に気づく。



## どういう展示？

- ・絵を言葉だけで表現してそれを別の人に絵として再現してもらう展示。
- ・絵を描く方と言葉で表現する方両方の面から体験できる。

## 着眼点

- ・言葉と絵から得られる情報の違いの可能性を考える。
- ・用いる絵を図形と写真で分けることで、幾何的で比較的情報量が少ない（図形）と情報量が多い（写真）もので取捨選択の差を見る



# これまでの活動実績



# これまでの活動実績①：2018年～2019年

## 創作活動や体験から「生活知」を引き出す手法の探究

### 2018年 「未来の生活」

変わる世界、変わらない私 ～20年後の未来を描く～

「生活空間」を再現→その中で研究・技術がどのように溶け込むか？



### 2019年 「創造性」

「つくる」ってなんだろう？ ～How Do YOU Create?～

「創作活動」を起点として、参加者が様々な活動に取り組む



## 「創作活動」を起点として、生活者の声を引き出す手法を確立

- ✓ 当事者性：科学や学問を自身の価値観の中に捉えること
- ✓ 受容可能性：「自分が参加しても良い」という感覚を与えること
- ✓ 柔軟性：参加者の回答に応じて、対話の内容を柔軟に変化させること

「きっかけと探究を通貫したデザイン」

# これまでの活動実績②：2020年～2021年

## オンラインでの実践の探究・論文誌 & 学会発表での発信

### 2020年 「科学の相対化」

見える世界、見えない世界 ～科学と私をつなぐもの～

コロナ禍に伴い、実践のオンライン化を推進



科学色 (SCIENCE)

科学の色彩	自然	数学	医学	工学	芸術
無常の可能性	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術
科学の色彩	自然のイメージ	数学	科学のイメージ	工学	芸術

### 2021年 「言葉と心」

伝えることば、伝わるころろ ～世の中と科学と、そのあいだ～

オンライン上で、「同期・非同期の体験～対話の場」を構成



投票の一覧		
質問	内容	回答
科学の色彩は、何を意味しますか？	科学、芸術、工学、医学、自然	1票
科学の色彩は、何を意味しますか？	科学、芸術、工学、医学、自然	2票
科学の色彩は、何を意味しますか？	科学、芸術、工学、医学、自然	1票
科学の色彩は、何を意味しますか？	科学、芸術、工学、医学、自然	0票
科学の色彩は、何を意味しますか？	科学、芸術、工学、医学、自然	6票
科学の色彩は、何を意味しますか？	科学、芸術、工学、医学、自然	3票

## UTaTanéの実践とコミュニティを、オンライン・学内外に展開 / 発信

- ✓ オンライン化の推進：サイエンスアゴラ，東大学園祭等のイベント出展
- ✓ 学内外での共同プロジェクトの推進：言語学研究者（人文学・言語）・作業療法士（臨床・身体性）etc.
- ✓ 学術コミュニティへの貢献：論文や学会発表等を推進。査読付論文を含む学術コミュニティへ「UTaTanéの理論」を発信

## 様々な題材への取り組みと「探究」の道筋づくり

### 2022年 「個別性と科学」

ぼくの世界、きみの世界 ～違いを見つめ、科学を感じる～

対面でのイベントを再開し、'19の「創作活動」を広げる



### 2023年 「相互作用」

まざりあう世界、変わりうる私 ～きみとともに、科学とともに～

「探究」の洗練と「対話」へのアプローチ



## 参加者主体の科学・学問コミュニケーションの場を題材・方法ともに拡張

- ✓ 題材の拡張「人文社会科学系の議論の活用」：科学社会学，社会心理学，言語学などの考え方を体験として導入
  - ✓ 方法の拡張「探究の効果的手法」：きっかけの先で考えを深める「営みとしての学問」を体感する仕組みを開発
- 今まで注目されてこなかった学問分野や学問の特徴を伝える，ともに考える手法の開発。

## 論文・学会発表 4件

- ・久保田祐貴,加藤昂英,一柳里樹: 参加者の自発的交流と参画を促す科学技術コミュニケーション, 『科学技術コミュニケーション』28号, pp.61-74. [論文誌採択]
- ・青井隼人, 加藤昂英, 韓東学, 久保田祐貴: 『オノマトペディア』: 言語研究を題材としたオンライン展示企画の協働開発裏話, リンディフォーラム: ウェビナーシリーズ(18), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 LingDy3事務局 (オンライン, 2021.11.16).
- ・久保田祐貴, 加藤昂英, 加藤多笑, 森雄一郎: 参加者の「声」を聴く: UTaTanéのオンライン実践と課題, 科学教育ボランティア研究大会, (オンライン, 2021.12.19)

## 学外出展 12件

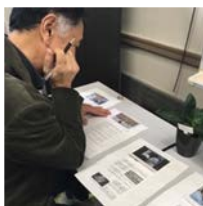
- ・2023.9.14 田園調布学園・高2情報授業 (AI模擬裁判のメンバーと共同でゲスト授業を実施)
- ・2023.5.13-5.14 AI法廷の模擬裁判 (ワークシート監修協力)
- ・2022.11.5.6 サイエンスアゴラ2022 [採択, 注目企画選定]
- ・2021.11.7 サイエンスアゴラ2021 [採択, 注目企画選定]
- ・2021.3.6 Quora ClubQオン会
- ・2021.2.15 - 3.31 第6回すぎなみサイエンスフェスタ
- ・2020.11.23 コミュタン福島開所記念イベント [主催者より受託・イベント監修]

## 学内出展 12件

- ・2023.5.13-5.14 第96回五月祭
- ・2022.11.18-11.20 第73回駒場祭 [学術企画に選定]
- ・2022.5.14-5.15 第95回五月祭 [みどころ企画・学術企画に選定]
- ・2021.11.20 - 11.22 第72回駒場祭
- ・2021.5.15 - 5.16 第94回五月祭 [みどころ企画に選定]



久保田祐貴, 加藤昂英, 一柳里樹: 参加者の自発的交流と参画を促す科学技術コミュニケーション~UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析~, 『科学技術コミュニケーション』28号, pp.61-74 (2021).



詳しくはこちら



# 目指す実践 / 大切にしていること

## 「きっかけ」 → 「探究」 → 「対話」を一気通貫した実践

### きっかけ

私も参加したい/できる実感を持って始める

大学教授/研究医

LINE



<プロフィール>

✓感染症関連ではないが、医学関連で数多くの実績を挙げ、受賞多数。

✓一般への発信にも積極的

✓有名で、わかりやすい説明にも定評



- ・ 受容可能性が確保された空間を作る
- ・ 身近な経験を振り返る仕組みを作る

### 探究

自分の経験を掘り起こして言葉にして、深めていく



- ・ 学術的議論をもとに思考の道筋を整備
- ・ 様々な角度から考えを問い直す仕組みを作る

### 対話

自分の言葉を携えて、異なる価値観を持つ他者と話す



- ・ 唐突ではなく、丁寧な言語化の上での対話に
- ・ 同じ体験を通じた共通基盤を持った対話

### 参加者にとっての意義

→この場で対話まで取り組むことにより、考え対話することに慣れ、「科学への参画」に対する動機・自己効力感を持つ。

### 科学・学問にとっての意義

→人文社会科学の議論の焼き直しや、表面的な回答にとどまらない、生活の実感から出てくる「生（なま）の声」を聞く。

## 1. その場の「魅力」で終わらず、展示会場を離れても「問い」が続いていく実践

展示から「問い」や「体験」を持ち帰り、家や学校での自然な会話を通じて、花が開いていく

※参加者が長時間を過ごす、学校や家で展示を思い出し、展示の問いかけが続いていくことが重要

※参加者自身が新たな発信者となる可能性も秘める

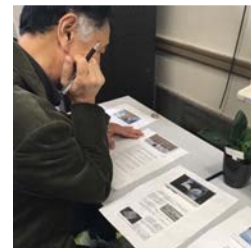


## 2. 「自身が考えること」の可能性（効力感）や意義を感じられる実践

自分も考えられる / 考えたい・自分こそが考えるべきだと思える体験を作り、「ともに考えること」に誘う

※全員の過去の経験を尊重し、一人ひとりが考えること・語ることに意義があると感じられる成功体験をつくる。

※言語未満の感覚や感情も大切に。



## 3. 大人も子供も、スタッフも参加者も、みんなが体験し、考え、楽しめる実践

人や科学と関わるすべての人が一緒に取り組み、異なる背景を持つ人同士で交流していく。

※科学コミュニケーションは特定の誰かのためのものではない。

※SNSでの閉鎖的な"情報の生態系"が生まれてくる中で、異なる価値観を知り、理解し、ともに考える枠組みを作ることは極めて重要

# UTaTanéが（ほぼ確実に）作らない実践

（注：あくまで現時点での理想であり、常にアクティブなメンバーが目指す「価値」を生み出していく）

## 1. 科学の「面白さ」や「魅力」だけを伝える展示

展示の面白さや魅力自体は「きっかけ」として非常に重要だが、「面白さ」は、手段であって目的ではない

※「科学の実態」や「科学研究がどのように進むか」、「コロナをどう考えるか」といった、面白さでは語れない話題も非常に重要

## 2. 「知識を教える」だけの実践（e.g. 講演、実験ショー）

知識を学ぶだけであれば、学問系YouTuberや、科学館・博物館など豊富なコンテンツが提供

また、単に答えがある問いを投げかけて、答えを提示するだけでは、次に考える要素につながらない





1. 机上の空論・議論で終わらない「実践第一」の姿勢
2. 単なる実践で終わらない、積極的な「実践の価値」の発信
3. 自由な発想とアイデアに基づいた、オリジナルな実践や展示の作成
4. 皆で学び、議論し、考えながら、団体ならではの強い発信と実践を実施
5. **自分たちが、面白い、人に届けたいと思うものを作り、発信する**  
→粗削りでも良いので、面白いと思った展示を作り、展示中にも改良を重ねていく



科学技術コミュニケーション 第28号 (2021) Japanese Journal of Science Communication, No.28 (2021)

報告

参加者の自発的交流と参画を促す  
科学技術コミュニケーション  
～UTaTanéにおける2つの実践に基づく分析～  
大塚田 航貴<sup>1)</sup>, 加藤 浩晃<sup>2)</sup>, 一柳 聖樹<sup>3)</sup>

要旨

近年、参加者それぞれが、新たな視点や科学との関わり方を見いだすことができる、討論を伴う科学技術コミュニケーションが注目されている。その実践では、参加者に関する参加者の意識や知識も説明者や他の参加者が把握するとともに、参加者と説明者が共同で新たなアイデアや視点を生み出すことが重要な目的となる。本報告では、東京のUTaTanéにおける一連の活動から2つの実践事例を紹介する。これらの実践では、当事者性・定年可変性・柔軟性の上にも議論・知識の議論を行った。さらに、参加者の積極的な参画を促進の観点とすることで、参加者と説明者の両方が新たなアイデアや視点を発見することを目的とした。結果として、知の参画以上の参画性を促進だけでなく、参加者間の知識の共有や知識の共有が実現された。参加者や説明者の新たな視点を得る機会

他の参加者や説明者が新たな視点を得る機会  
「私のデザイン」が好評を博し科学技術コミュニ  
ケーションの発展に寄与した。参加者の相互関係や  
参画促進を目的とした実践が実現された。

論文発表





# 問い合わせ先

UTaTané（うたたね）では、さまざまなイベント実施を承っております。

実施例：小中高でのゲスト授業、企業/ボランティア団体の研修、  
科学イベントでのブース出展・ワークショップ企画 など

[フォーム](#)またはメールでお気軽にお問い合わせください。

E-mail : [utatane.mayfes2018@gmail.com](mailto:utatane.mayfes2018@gmail.com)

郵便：〒153-0041 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学 学生会館305 UTaTané

